



ことが起こっていると思われる
ますか？

加藤 希望的観測ですが、26
年には個人に最適化された教
育カリキュラムが増えている
と思います。例えば、アメリ
カのオンライン大学等で、こ
こ2、3年ぐらいで広がりは
始めているコンピテンシー・
ベースト・エデュケーション、

いわば何がどれだけ到達でき
たかを考え、授業を何分、何
時間座ったかではなく、何が
できるのか、何ができれば学
修したとみなすのか、という
形で大学の単位制を外して評
価しようという動きが出て
きています。

それとはまた別に、「き
のくに子どもの村学園」で
は、小中学校で、プロ
ジェクト・ベース
ト・ラーニング（P
BL）を大きく取
り入れて、例えば木
を切つて家を作りま
ししょう、演劇をや
りましょう等のプロ
ジェクト活動の中
に色々な教科内容を埋
め込んで学習させて
います。オンライン
学習を含む学習形態
が多様化し、オンラ
イン学習やPBLな
どがどんどん増えて
きて、多様化しなが
ら、いろいろなも
のがシームレスに繋
がっていくのではな

いかと思います。

加藤 遠藤さんは、塾での教
え方、学び方をICTはどん
なふうに変えていくと思われ
ていますか？

遠藤 10年後はICTの活
用を全くやっていないとこ
ろと、ちゃんとやっているこ
ろに分かれていくのかわど
思っています。学校では、一度タ
ブレットを入れると同じも
のを何十年も使わないとい
けない縛りがあると思いま
すが、塾はないんです。そう
いう意味で、常に今できるこ
とについていく塾と、そうい
うことをしない塾に分かれ
るかなと思います。

加藤 最後に一言、何かメッ
セージをお願いします。

寺西 今の若者は、将来に不
安を覚えています。それを受け
止め、そしてワクワクしなが
ら課題解決に取り組んでいる
人たちが非常に多いと思っ
ています。そういう子供達に大
人が蓋をしないで欲しいいな

思っています。

加藤 情報技術やテク
ノロジーは好む・好ま
ざるに関わらず、必ず
進展していきます。こ
こ数年でかなりテクノ
ロジーが大きく変わ
りました。そのときに必
要なのがビジョン・ボ
リシーだと思います。
みなさま方の塾はどう
いうところを見て、何
を指すのかというこ
ころをはっきりさせれ
ば、テクノロジーを使
った方がいいのか、
使わない方がいいの
か、どれくらい使っ
たらいいのかが見えてく
ると思います。

Showcase session



光クラウドスマートスタディを紹介する
NIT 東日本のブース
ロボットを紹介する伊藤林株式会社
のブース
直営ストアエアのブース



達の学び方が変わってきたと
思いますか？

遠藤 前提として、タブレッ
ト独自の勉強の仕方を伝えて
いけないといけないと思いま
す。生徒の方がリテラシーが
高いので、勝手に使いこなし
ていきます。それが塾として
はよくないところもあります。

そもそも使い方をきちん
と伝えないといけません。
問題を解くときに、文章の
解説を読む。わからなかつ
たら解説動画を見る。それ
でもわからなかつたら、答
えを見て解説を見る。それ
でもわからなかつたら、解
説の動画を見る。

そこまでやってわからな
かったら、先生を呼びましょ
う。次の問題に行ってもいい
けど、なんで間違えたのかを

ノートに赤できちんと書きま
しょう。ここまでやってワン
セットです。ノートも使うよ
うにして、ここまで規定して
使わせています。そうでない
と、勝手に動画を見て遊びだ
したり、解答動画を暗記した
りズルをするなど、デメリッ
トが発生してしまいます。

寺西 ライン引きに大事だと
思います。大事なのはリスク
を承知の上でリスクに対処で
きるところまで認めてあげる
ことなのかなと。それをしな
いと次にいけないので。

加藤 テクノロジーを正けて
いく時にはどうしても出てく
る問題なのかなと思います。

加藤 例えば成屋学園や近
大付属高校などでは、子供達
にどのようなリスクがある
かの情報を伝えて、ルールを
子供達に作ってもらうこと
を実践しているようです。自
分たちでルールを決めて自
分たちがそのルールを守る。
このような取組は大事だと
思います。

2026年の
教育現場

加藤 今回のテーマが26年の
教育現場のICT活用なの
で、一気に10年後の話にし
ますが、教育において10年後
の見過しはどうでしょうか？

寺西 10年前に何が起った
か。06年のバズワードはW
B2・0です。この言葉は今
は聞かないし、WEB2・0
の世界はもう終わってしま
う？じゃあ、16年は何が起
こっていたかと言うと、バズ
ワードは第4次産業革命で
す。ということは、その世界
観が10年後来てもおかしくな
いと思うのが普通ではないか
な、と。となると、AIやア
クティブラーニングのような
ものが進展して、普通に行わ
れているとよむことができる
のではないのでしょうか。

加藤 この中で一番未来を見
ているのではないかわれる
加藤さん、実際に研究してい
ることも含めて10年後どん

